

平成28年度

# 施政方針

「日本一お客様に愛され、  
選んでもらえる島」を目指して



甲斐市長が市議会3月定例会で施政方針演説を行い、平成28年度の主要施策を発表しましたので、その概要をお知らせします。

## はじめに

私は4年前、5つの公約をお示しし、その公約の実現に向けて真摯に取り組み、その成果が出てきております。

佐渡産コシヒカリの品質向上、世界文化遺産登録の推進、支所や行政サービスセンターの存続、若者の移住・定住者の受け入れ環境の整備、人材育成等に取り組み、日本一暮らしやすい島を目指してきたところであります。

他方で、昨年は、あつてはならな

い職員の不祥事が立て続けに発覚し、この反省から制定した「佐渡市職員の行動規程及び責務等に関する条例」を道標として、市民の皆様から真に信頼される市職員となるよう努めてまいります。

本市の地方創生に当たっては、昨年7月に県内でもいち早く「佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。佐渡の将来を担う若者の育成を長期的な取組とし、短期的には第1次産業の振興と観光振興を中心とした若者の雇用の受け皿づくりと、子育て環境の整備に取り組みます。

今後とも国の地方創生関連制度を有効に活用しながら、佐渡版地方創生総合戦略の充実を図ってまいります。

## 【元気な産業と安定した雇用の創出】

市内の人口減少や少子高齢化に伴い、労働力人口・労働投入量も減少し、厳しい経済状況に置かれていることから、米を中心とした第1次産業の振興により産業の基盤強化を図り、元気な産業と雇用の創出につなげていくことが喫緊の課題です。

### (1) 安定した品質向上

平成27年産米の1等米比率が県内トップの88%等といった好材料を確

実に前進させるため、稲作の技術向上を進めながら、高品質な土づくりや色彩選別機械等の導入を推進するとともに、病害虫防除の徹底を図り、コシヒカリ1等米比率90%以上を目指し、佐渡米のより一層の品質向上に取り組みます。

また、生きものを育む農法による安心安全な米づくりを広げ、将来にわたり地域農業を支える集落営農組織等の多様な担い手を確保・育成し、

耕作放棄地の防止に加えて、栽培技術の統一による品質の向上を図るとともに、一丸となって集落全体の農業経営に取り組み活動を支援します。

### (2) 高付加価値化による所得確保

朱鷺と暮らす郷づくり認証米の販売は、これまでの高付加価値化の推進により「外貨」獲得につながっています。平成27年産の認証米からは1等米のみの要件を追加し、これまでに以上に厳しい生産を求めてまいります。

また、佐渡の棚田米はブランド米として定着し、高価格帯で安定した販売につながっています。この7月には全国棚田サミットが佐渡で開催される予定で、棚田米の知名度を高める絶好の機会と捉えて、しっかりと魅力や価値を伝え、更なるブランドイメージの向上を図ります。

さらに、もみ殻堆肥や木質バイオマスの利用による循環型農業を推進するとともに、再生可能エネルギーの導入支援や事業所の省エ

